

「間接金融」って何？
「直接金融」が増えて
いると聞いたけど？



Q2

直 接金融・間接金融という言葉は、外務員試験にも出てきたことでしょうか。ここでいう「金融」とは、事業その他に必要な資金を供給／調達することです。

直接金融とは、株式の発行または社債の発行といった方法で、企業自ら資金調達を行うことを意味します。一方で間接金融とは、企業が金融機関から借入れを行って資金調達することを意味します。

従来は、企業が金融機関からの借入れで行う間接金融が当たり前の手法だったわけですが、かなり前から、企業の資金調達において直接金融のウエイトが高まってきました。この背景には、金融機関からの借入れコス

トや、不良債権問題から銀行融資が引き締められた経緯などがあります。株式発行等による資金調達を考える企業は、大企業だけでは

なく、これから伸びていくこととするベンチャー企業にも見られます。担保もあまりなく、自己資本の強化という面からも、こうした志向が強いことはいくらもありません。また、事業を行ううえで、金融機関の持つネットワークや支援ソースを活用していくことは非常に重要です。

企業が安定的に資金繰りをつけ経営を維持していくためには、金融機関の協力が欠かせません。また、事業を行ううえで、金融機関の持つネットワークや支援ソースを活用していくことは非常に重要です。金融機関の行職員としては、金利などの条件面以外の部分が間接金融を利用するうえでメリットになることを、自信を持って訴えていくべきでしょう。

●ここが回答のポイント！



こんなに低金利の中で
銀行はどうやって
収益を上げているの？



Q3

金 融機関の収益の多くの部分は、受け取るべき貸出金利と支払うべき預金利息の差に拠っています。

現在の一般的な金融機関においては、低金利によって支払う預金利息は少なく済んでいます。貸出金利も年々低下しており、厳しい経営を強いられるといえます。

地道な貸出の積上げが必要

これを補完しているのが、有価証券の利息配当や売却益です。有価証券の中心となるのが国債です。どの金融機関も、相当額の国債・地方債（合わせて公共債という）を保有していますが、この利息収入と中途売却益によって、相当額の利益を計上しています。

外務員試験にも出てきたもの

と思いますが、金利が低下する局面では、債券価格が上昇しやすくなります。つまり、国債など債券の価格が上昇して、売却益が出やすい環境にあるのです。

この他にも、金融機関として一定比率保有する預け金の利息、さらには投資信託・保険商品を取り扱うことによる役員収益なども、補完的な存在として位置付けられます。

しかし金融機関にとっては、貸出による収益増強が不可欠です。既往貸出の金利を引き上げることは難しい状況ですが、新たな優良貸出案件を見つけることで、収益を地道に積み上げていくことになるでしょう。

これが回答！

有価証券の利息配当や売却益、預かり資産の役員収益等があります

母店と衛星店(子店)の
違いは？なぜ分ける
必要があるの？



Q4

店 舗数が少なくない金融機関では、母店と子店に分ける体制を敷いているところも少なくありません。また1つの建物の中で、「近代銀行中野支店」と「近代銀行中野営業部」のように、看板が分けられているケースもよく見かけます。

これらの多くは、預金などの受信業務と融資などの与信業務という金融機関の2大業務に基づいて、括りが分けられています。例えば母店は受信・与信両業務を扱う一方で、子店では受信業務のみを行うという形態があります。

業務の効率化が目的

分店化の理由としては、業務の効率化が大きいです。一般的に、融資相談のためにお客様が毎日続々と来店すると

いうことはないですし、取引先との相談はこちらから出向いて対応することも多いものです。また、お客様がエリア内に点在していることも多いため、個々の店舗が各々で管理するよりも、人員を集約して一元管理するほうが好ましいケースもあるということですね。

預金と貸出の比率を表す預貸率という指標があります。住宅街に位置しており、どうしても融資が伸びない（預貸率が低い）店舗などは、与信業務は母店に任せ、預かり資産も含めた受信業務にエネルギーとノウハウを集中させていく...という選択が自然になるわけです。

これが回答！

人員集約により各機能を一元管理して、業務効率化を図るためです